

自宅の過ごし方に工夫

外出を控えて自宅で家族と過ごす動きが県内で定着しつつある。編み組み細工などの手仕事で盛んな三島町では小学校から各家庭にマスクの型紙が配られ、児童が家族から伝統の技を学びながら

余暇を過ごす。三島小四年の布川芽依さん(みよこ)は二十五日、裁縫が得意な祖母の貞子さん(まこと)の手ほどきを受けながらマスク作りに励んだ。会津木綿の生地を型紙に合わせて切り、ミシン

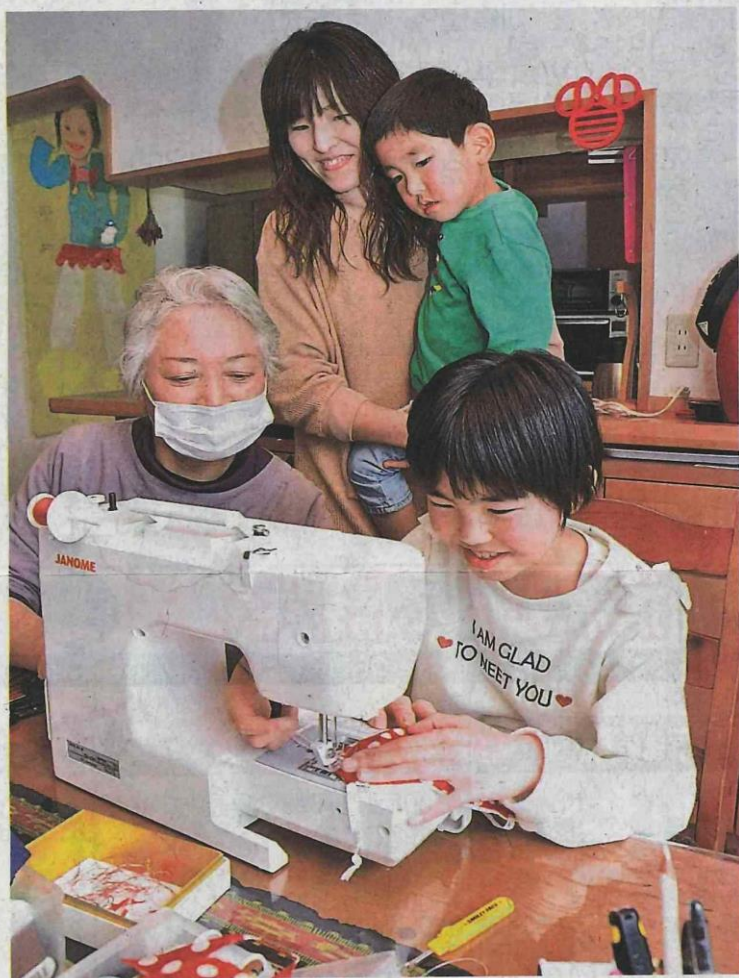
で丁寧に縫った。地元道の駅スタッフにも使ってもらおうと次々に仕上げた。布川さん一家は大型連休中は町外に出掛けるのが恒例だが、今年は自宅で過ごす。町内には感染

時に重症化リスクの高いとされる高齢者が多い。芽依さんは遠出ができないのは寂しいが「自宅で家族とゆっくりと過ごす時間も貴重」と話す。

テークアウト 出前が増加

県内では、外出自粛要請を受け、テークアウトや出前を利用する家庭が増えてきた。南相馬市原町区のバー「Wizard(ウィザード)」は今月上旬からテークアウトを始め、注文数が徐々に伸びている。大型連休中の利用増加を見込んでおり、オーナーの草野聡さん(さとし)は「外出したくてもできない人のため、おいしい料理を心を込めて提供したい」と意気込む。

三島 マスク作りで裁縫学ぶ



マスク作りに挑戦する布川さん一家。25日、三島町